

植栽活動が自然環境に負荷を与える可能性も

自然環境の保全、環境教育、景観の改善といった目的で植栽が行われ、ボランティアによる場合は美談として扱われることが多い。

危機的個体数となっているイリオモテヤマネコの交通事故防止のために、草丈の高い外来植物を駆除して、草丈の低い在来の芝等を植える活動をしているが、植栽種を自前で育てている。外国産種ばかりではなく、地理的に離れた場所からの購入種苗は全てが国内外来種となり、自然環境に負荷を与えかねないからである。

西表島の様な自然度の高い地域での植栽では、目的に沿った地域の在来種を用いることが望ましい。特に行政による植栽ではこの点を留意して頂きたい。民間助成による植栽では、購入種苗を用いることが前提となっていることが多いが、このような際には活動の主催者は植栽種選択に十分に配慮して頂きたい。美しい花をつける、管理が容易等で選択したら、本来の目的とは逆に自然環境に負荷を与えてしまう可能性がある。